

所属校をお答えください。 ID	本研修は自己研鑽になりますか。	本研修で印象に残ったことは何ですか。	今後の研修で扱って欲しい内容がありましたらご記入ください。
19 狛江第一小学校	5	子供は子供の中で学び成長する。この言葉が凄く印象に残っています。主体的な学びを大切にしていきたいと思いました。	
22 狛江第一小学校	5	本人も交えた支援会議を実施してる国があるということ。個別指導計画などを日本でももっと活用したりできたらいいなと思いました。	
27 狛江第一小学校	4	日本と世界の国々では、制度や学校での対応が違うこと。発達障害の子供たちの不登校が多いこと。一人一人に合った対応をすること。	
28 狛江第一小学校	5	イタリアには特別支援級や精神科がないことを初めて知った。日本では要学習支援児童が増加していることや個別指導の重要性について学ぶことができた。実技を通して理解の仕方やものの見方などの違いを実感した。	
32 狛江第一小学校	5	軍手を使い、実際に困難さを体験したこと。	
30 狛江第一中学校	5	保護者も一緒に支援していくという視点	思春期の児童、生徒による自傷行為等に対する対応やメンタルケアについて
53 狛江第一中学校	4	日本と他の国の支援の在り方の違い	
1 狛江第五小学校	5	ディクレシアについて	国際理解について
3 狛江第五小学校	5	通級指導の課題について、具体的な例があったので理解が深りました。	
4 狛江第五小学校	4	特別支援が必要とする児童の立場になって活動したこと、教員が合理的配慮を考えた授業展開の準備	毎年、緑野小で行っていた体育の実技研修 実技研修系をやりたい。すぐに現場に生かせるようにもの
10 狛江第五小学校	4	日本と諸外国の風土と制度について	問題発見学習について具体的な事例を踏まえながら学びたい。
20 狛江第五小学校	4	1人1人に合った対応が大切ということ、また、合理的配慮は権利であるのでそれを理解し、こちらも対応していくことが印象的です。	保護者対応、体育の実技、タブレット事例の研修
26 狛江第五小学校	5	発達障害の早期発見・早期指導の重要性	
35 狛江第五小学校	4	シングルフォーカスです。必要な情報が視野に入っていない可能性を考えながら教育活動にあたる必要があるとわかりました。	
36 狛江第五小学校	3	日本と外国の障害に対する学校の意識や、精度の違いに驚きました。一人一人の困難さに対して何をしていくのかを考えていきたい。そして、外国のように日本も障害のある人に対しての対応をもっと寛容だといいなと思った。	
48 狛江第五小学校	3	障害は治らないから、その周りの環境が変わらないといけないという考え方	
15 狛江第三小学校	3	特別支援の基本	
16 狛江第三小学校	3	特別支援の基本	
18 狛江第三小学校	4	自分が、障害者の気持ちを体験することが、相手を理解する第一歩だと感じました。	
51 狛江第三小学校	3	タイマーの使い方について	
2 狛江第三中学校	5	インクルーシブ教育について	
21 狛江第三中学校	3	インクルーシブ教育やIEP作成をしている諸外国の対策がすごいと思いました。日本も予算と人的支援と制度を充実させてほしいです。	
40 狛江第三中学校	5	諸外国で支援の必要な子どもも通常級での学校生活を送れる基盤が整えられている裏で、日本ではどこかマイナスな感情や適切でない理解のしかたにより、特別支援教育の理解や整備が進んでいないこと。	
50 狛江第三中学校	4	インクルーシブ教育の現状について	
55 狛江第三中学校	5	地域で学びたいという保護者対応について考えさせられました。	

13	泊江第四中学校	4	ちょっと、ちゃんと などの言葉を具体的に説明する必要がある。	
14	泊江第四中学校	5	自閉症の子どもの増加	特にないです
17	泊江第四中学校	5	疑似体験をして大変勉強になった。	
46	泊江第四中学校	4	ちょっと、ちゃんと などの言葉を具体的に説明する必要がある。	
8	泊江第二中学校	5	特別支援教育の実践的なこと。	
34	泊江第二中学校	5	・日本と世界の特別支援教育の比較が参考になりました。・ユニバーサルデザインの方法が参考になりました。実践してみたいです。・以前秋田県の公立中学校に勤務していたときは、特別支援学級の生徒も交流学級で授業を受け(もちろん一部は個別対応)、その支援をする先生がT2として配置されていました。また、特別支援教育支援員が各校に配置され、特別支援学級の生徒に限らず、支援を要する生徒の支援にあたっていました。ところが、東京はそのような支援が少なく、通級指導も週2時間程度なので、支援の拡充が不可欠であると感じています。	
45	泊江第二中学校	5	軍手を用いて折り紙を折ったり、様々な例を提示していただいたりしたこと。生徒の症状によって、伝わり方や感じ方が異なることを身をもって実感できたので、今までの自身の授業内容を振り返り、反省し、二学期以降に生かしていきたいと強く思った。	
37	泊江第六小学校	5	授業の中でも個に対応できるように教員が用意することが必要	
39	泊江第六小学校	5	海外の合理的配慮について	
44	泊江第六小学校	5	VTR	
54	泊江第六小学校	2	自閉症の子供がとても増えていること	効果的な学級経営、授業経営
6	緑野小学校	3	特別な支援を有する児童に対しての方法	
7	緑野小学校	3	日本と外国でも障がい者理解や障がい者教育に差があり、日本でも適切な指導を行っていく必要があると感じた。	
24	緑野小学校	4	平等な支援をするのではなく、すべての児童が平等に教育活動に参加出来るための公正かつ公平な合理的配慮が必要になるということ。	
31	緑野小学校	5	特別支援を必要とする児童が増えている中で、退級を1年で目指したり、教員数が少なくなるかもしれないといった現状もあり、少ない指導数の中で支援していくのが難しくなりそうだと感じました。	
33	緑野小学校	5	障害のある児童とない児童が、共に生活することで、成長していくというお話が印象に残りました。	
38	緑野小学校	5	障害者理解教育として例えば「目が見えない体験」をしたとき、「怖い」などネガティブな感想ばかりになってしまわないよう、全盲の方々の素晴らしい一面や優れた点をきちんと伝えていかなければならないということです。今までその視点はもてていなかったので、とても勉強になりました。	
41	緑野小学校	5	海外と日本の特別支援教育の現状	知的障害の児童の特徴、事例など
43	緑野小学校	4	インクルーシブ教育が進められていくと、障害をもった児童も通常学級に在籍するようになるということ。通級を利用することは、好ましいことだと思っていたが、今後はその価値観も無くなるのだろうか。自分のクラスに今まで支援学校に行っていたような子どもが来るとなったら適切な対応できるだろうかと少し不安になった。	
47	緑野小学校	5	支援の必要な児童が、どんな困難を抱えているのかがよく分かりました。	
52	緑野小学校	3	子どもたちがいつも公平に学校生活が送れるように、私たちは支援の方法を考えていく必要があると思いました。また、子どもの課題にばかり目を向けるのではなく、努力しているところや長けているところに目を向け、認めることができる教員になりたいと感じました。	
5	和泉小学校	5	海外と日本の特別支援教育に対する考え方や制度の違いについて知りました。	
9	和泉小学校	4	発達支援が必要な児童がどのような困り感があるのか体験できること	

11	和泉小学校	5	他国の支援と日本の支援の差	
12	和泉小学校	5	演習 諸外国の制度	
23	和泉小学校	4	インクルーシブの考え方。大阪の小学校の映像を見て背筋 がゾッとした。自分の意識の低さを感じた。	
25	和泉小学校	5	手袋を二つ使い、指先の感覚が不自由な状態を体感できた こと。特別支援に関する学校現場の実態を知ることができた	特別な支援を必要とする 児童・生徒への正しい配 慮の仕方など。
29	和泉小学校	5	海外と日本の特別支援の実態について	
42	和泉小学校	5	一年生の担任をしている私にとって授業のユニバーサルデ ザイン化は、経験や記憶の少ない一年生にとっても効果的 だなど印象に残りました。	
49	和泉小学校	4	海外には、当たり前のようにインクルーシブ教育が実践され ているが、日本も同じように進めていくには様々な課題があ ること。	
6	泊江第一小学校	5	虹色の話。人それぞれ色の割合が違う、自分自身でも日に より、歳により、担当により、状況により、色の割合が違うな と思いました。	
30	泊江第一小学校	5	ASDについて、具体的で分かりやすくお話を頂き、大変有意義 でした。今後にいかせるヒントが沢山ありました。ありがとうございました。	
43	泊江第一小学校	5	多様性の尊重と受容。1人1人が違うことを理解し子供にも 伝えていくことが大切。気持ちの通訳をしてあげることが大 切。	SDGs
47	泊江第一小学校	4	多様性の尊重と受容、ポジティブに子供に伝えていくこもが 大切だと思いました。	個々にあった対応につ いて
52	泊江第一小学校	5	児童のことが分からないと、支援することはできない。児童 の丁寧なアセスメントが必要。その際、できることを探す のではなく、「ここまでできる。」を観察するようにする。	
56	泊江第一小学校	5	アセスメントが大切であること。何に困っているのか気付い たり、ポジティブな伝え方をしたり、一人一人にできることが まだあると痛感した。多様性の尊重と受容について、私自身 がもつと考えていきたいと思えた。	今回のように、学級の実 践に活かせそうな研修は とてもありがとうございます。
9	泊江第一中学校	5	通常学級で困り感のある生徒への対応	
18	泊江第一中学校	3	親子関係が大きく影響している	現場での実例をシェアする。教科ごとの評価方法 の共有
21	泊江第一中学校	4	馬が合わなくても、見方を変えたり時間をかけたら理解が進 めということ。生徒理解にもつながる良い学びだった。	
24	泊江第一中学校	1	隣の方と話し合う必要がわからない。	指導事例紹介など
48	泊江第一中学校	5	受容、待つ、あたためる	AEDなど、救命講習
50	泊江第一中学校	4	クラスにいる配慮が必要な生徒との関わり方	道徳関係
17	泊江第五小学校	4	一人一人の抱えている困難さが理解できた。	特になし
25	泊江第五小学校	4	個人を認めるの大切さ。子どもも苦しんでいることがわ かりました。自分にも心の余裕をもたせたい。	
26	泊江第五小学校	4	感情の言語化すること。	
31	泊江第五小学校	5	多様性の尊重と受容	今後も事例をもとに対応 策等について引き出しを 増やせるお話を伺いたい です。
46	泊江第五小学校	4	多様性の尊重と受容、違うことを当たり前にして、違いをポ ジティブにとらえるよう(言語化していくことをこれからも心が けていきたい。また、特別支援は親子支援であるということ も大きな気付きであったので、今後、どのように保護者の懼 みに応えていくかについても考えていきたい。	
49	泊江第五小学校	4	多様性の尊重と受容の大切さ	
27	泊江第三小学校	5	多様性と受容のお話を。	愛着障害の対応策など
34	泊江第三小学校	5	周りの子への伝え方。アセスメントについて	
37	泊江第三小学校	5	多数派に少数派ことをどのように説明するかを、学年に合っ た形で考え、伝えること。	
38	泊江第三小学校	5	アセスメントが大切であると学びました。原因が分かることで 対応も分かることを学んだので、今後は児童をアセスメント して寄り添っていきたいです。	星山先生の話を来年も聞 きたいです。
11	泊江第三中学校	5	特性の理解	特性の理解を教育法に 生かす方法

39	泊江第三中学校	5	気持ちの通訳を続けること。	親支援の具体策
44	泊江第三中学校	5	特性をもった生徒の感じ方	
			発達障害をポジティブに本人に伝えること、みんな違って当たり前ということを分かりやすく例えて子ども達に伝えること。	各教科の研修もあつたら良いと思います。
53	泊江第三中学校	5	本人が困ったときに全体への声掛けとして”レーー進化系”が印象に残りました。これを基に対応の一助にしていきたいと思います。	特になし。
54	泊江第三中学校	4	「多様性を受容すること」「助け合って、助け合うために生きている」ということ。2学期からの課題にします。	指導と評価の一体化・教科別
55	泊江第三中学校	5	発達障害の子供に対して、ポジティブな言葉かけと嘘をつかないということが印象に残りました。あなたは発達障害だというのではなく、レアなんだよと特別感を持たせてあげるとうことは私もしていきたいと思いました。	
2	泊江第四中学校	5	特性がそれぞれ違うということ、それを認めていく必要性があること。	画一的な学校で、多様性を認めていく制度を具体的に今後どのように考えているのか。
7	泊江第四中学校	5	生徒一人ひとりを尊重し受け入れ大事さ	
13	泊江第四中学校	5	多様性の尊重と受容	
19	泊江第四中学校	2	通常学級で、支援を必要とする生徒がどう感じているかよく分かりました。	
29	泊江第四中学校	4	障害を抱えた子に対する対応の仕方	
32	泊江第四中学校	3	良好な親子関係によって生徒の様子が変わる。大人の正義によって子どもを追いつめてしまう事がある。	少し人数が多いとホワイトボードでは見えないので、パワポで行って欲しいです。
3	泊江第二中学校	4	生徒を認めて上げる事、生徒にわかりやすく教える、伝える事(ポジティブ)が大切であること。	特になし。
4	泊江第二中学校	4	善意の通訳	
5	泊江第二中学校	5	全て子どもを肯定しながら、話をしていたところ。それぞれ個性があり、ポジティブに認めてあげることが大切だということ	合理的配慮を現場に取り入れていく流れ
15	泊江第二中学校	5	特別支援を特別待遇と思われないための対応が難しいということ	
20	泊江第二中学校	5	何でもいいから話して下さい、というのは、とても難しい。一人一人を大切にする。恥ずかしいと思わせない学級経営の必要性。	特になし
57	泊江第二中学校	4	合理的配慮が必要な子がクラスに何人も居る現状で、担任1人でどう対応していくのか。	
8	泊江第六小学校	3	合理的配慮をズルいと言う児童への対応	
10	泊江第六小学校	5	善意の気持ちの通訳になることです。	
14	泊江第六小学校	4	目には見えない児童の心の中を認識し、受容していくこと。 特になし	
16	泊江第六小学校	4	一人一人のよさをみつけること	
33	泊江第六小学校	5	親の気持ち支援の大切さ	
41	泊江第六小学校	5	認知の特性の話	
1	緑野小学校	4	感覚特性について	
23	緑野小学校	5	無理をさせず合理的配慮をすること、スマールステップで出来ることから取り組んでいく事	
36	緑野小学校	4	気持ちは通訳者になること	
40	緑野小学校	5	児童の抱える特性の凸凹によって、どんな課題は苦難があるのかが具体的に分かりよかったです。	特になし
42	緑野小学校	4	特性のある子への対応方法が自分なりに考えることができました。	
45	緑野小学校	5	特別支援教育=親への支援 ということ。不安定な子供の要因は、親子関係が傷ついていることが多いこと。多様性の尊重と受容が大切だということ。	
12	和泉小学校	5	良好な親子関係をささえるのが、教員の仕事というお話が心にのこりました。	特別支援の具体的な指導
22	和泉小学校	4	つまずきポイントを把握し、得意なことを生かしていくこと。存在を褒めること。	その場にあった具体的な手立てがあれば教えてほしいです！
28	和泉小学校	4	一人一人の違いを受け入れること、特別ではないということ。隣同士話すことでの気づきもありました。	
35	和泉小学校	5		

51	和泉小学校	5	得意なことを伸ばすこと、合理的な配慮について子供に説明すること	
17	泊江第一小学校	5	多様性と受容の大切さ。子どもに寄り添った指導と支援。教師、大人が、子どものため変わり続けることの大切さ。	
19	泊江第一小学校	4	表情がマスクで見えなくなつたので、どのように伝えるのかが大切であるということが印象に残りました。	ICTの効果的な活用法です。
31	泊江第一小学校	3	多様性の尊重と受容 基礎的なキーワードで説明できないものがあった(反省)	
			児童の特性に応じた指導について。一人一人の長所を生かせるように多様性を認め、成長を促すような幅をもった教員になりました。	
33	泊江第一小学校	5	眼鏡をかけている子は、みんなと同じように活動していくために眼鏡が必要。それと同じように、頑張ってもどうしようもできないことがある。ずるくない、悪くない、仕方がない、人はみんな違うことをちゃんと伝えたいです。	wiscを実際やってみたい。明星大学の森下由規子先生から講話をいただきたい。
			75%に入らない児童の背景や特性を理解しながら、指導や支援の手立てを考えていきたいと思いました。また、周りへの理解を促す声の掛け方を考えていきたいです。ありがとうございました。	
45	泊江第一小学校	3	多様性の受容と尊重について。学級に必ず在籍している配慮が必要な児童とその周りの児童への対応については考えさせられる内容でした。自分だったらどう指導するかを考えながら講義を聞きました。	多様な価値観をもつ保護者との関わり方について。
46	泊江第一小学校	4	普通という概念について改めて考えさせられました。受容と共感をこれからも大事にしていきたい。	保護者対応について知りたい
47	泊江第一小学校	4	五感などの機能が個々違う児童の多様性をしっかり受け止めて、見極めていかなければならないこと。	ADHD、AD児童について
50	泊江第一小学校	3	子供の視点に立って考えることの大さが印象に残りました。	
56	泊江第一小学校	3	全員に同じ基準のものを求めるのではなく、一人一人に合った対応をする必要性を改めて感じた。	
60	泊江第一小学校	5	特別支援は難しい…が、やるしかない、ということ	
61	泊江第一小学校	5	問題行動はやりたくてやっているわけではない。担任の捉え方が他の子供たちのモデルになる。ということが印象に残った。一人一人を、認めて受け止めていきたい。	たくさんの子供たちがいる中で、合理的配慮をしつつ、全体指導も滞らせない多様な方法。
65	泊江第一小学校	4	特別な支援が必要な児童(大人も?)に対するこちらの見方を気にすることが大切。違いを楽しむ、違う人を受け入れようとする「受容」の心。感覚の特性を意識してどこまで頑張らせるのか、どこまで配慮するのかを見極めていきたい。今年度のクラスにも「レアタイプ」の子がいるが、「よいわざ」作戦や「通訳」作戦は行っていたので、この方向性でよいのだと安心した。さらに理解を深め「レアタイプ」も「ノーマルタイプ」もみんながhappyになれるようにしていく。	魂のこもった講師の方の話を聞きたい(話したい)です。
68	泊江第一小学校	5	子供の反応をよく見ることの大さを改めて感じた。	ICT関連
69	泊江第一小学校	3	気持ちをあたためるというお話を心得て取り組みます。	
70	泊江第一小学校	5	一人一人のよさを認めよさを伸ばすことの大さを改めて認識した。保護者対応などの課題への対応の仕方も	
74	泊江第一小学校	5	情緒不安定は、親子関係が深く関係しているお話から、クラスの子供たちと保護者の顔を思い浮かべながら聞きました。また、担任は保護者との良好な関係性を保つことを一番に考えていくことが大切という先生のお話もあり、特別支援の必要性を保護者へどのように伝えていくのか、難しいところがあると感じました。	
75	泊江第一小学校	4	どの子に対しても、その子の気持ちに寄り添うことの大さ。	川上康則先生のお話を伺って、学びを深めたいです。
84	泊江第一小学校	4	児童の支援をするために、自分や児童についてしっかりと理解し、温かな関係を築くことが大切だということを学びました。	
85	泊江第一小学校	5	個に応じた指導の必要性を強く感じました。そのために一人一人の児童理解をすることが非常に大切であることが分かりました。	
86	泊江第一小学校	5		

20	泊江第一中学校	4	生徒の特性をよく理解して、その子に合った支援を行うことが必要であると改めて感じました。	合理的配慮について
35	泊江第一中学校	5	多様性の尊重と受容が大切で、特に教師が周りの子ども達に合理的配慮の必要な子どもについて、きちんと、ポジティブに説明してあげる必要があるということです。	
51	泊江第一中学校	3	インクルーシブ教育の必要性と、多種多様な生徒に対する対応の仕方の重要性	特になし
58	泊江第一中学校	4	多様性を認めていくというお話。	教科の指導法を学べる研修。有名な先生の授業を観たい。
73	泊江第一中学校	3	活動が多く、また生徒たちの自己有用感などを生かせる学級経営を心がけたいと感じた。	エクセル研修
24	泊江第五小学校	4	良好な親子関係を築けるよう、子供だけでなく親子支援を行うということ。	
53	泊江第五小学校	4	出きることに気づく。できない理由に気づいてあげる。	
64	泊江第五小学校	3	多様性の尊重と受容があらためて大切であると感じました。特になし	
66	泊江第五小学校	4	多様性の尊重と受容の大切さ	
71	泊江第五小学校	4	認識の違いと共生について	特別支援学級をすすめるときのタイミングなど
78	泊江第五小学校	5	家族支援を基本として、子供の多様性を尊重すること、合理的配慮、視知覚などの感覚の違いから障害の理解など多岐にわたる内容を学ばせていただきました。ありがとうございました。	オンラインでの視聴でしたが、近くの方と話し合う形態の研修のため、一人でぶつぶつと小声で話すという不思議な時間がありました。言語化することやアウトプットする这样一个点では有意義でしたので、コロナが終息し、次回は直接お話を伺いたいと思いました。
3	泊江第三小学校	4	多様性	とくにありません
9	泊江第三小学校	4	人それぞれの感じ方が違う。どれが正しいと決まってない。	ウイスクの詳しい見方などを知りたいです。
11	泊江第三小学校	5	子供たちの特性を個性として受け止めること、ありのままの子供たちを認めること	タブレット端末の具体的な活用方法
13	泊江第三小学校	5	子供だけなく保護者も含めて、心の支援ができるようにしていきます。2学期からさらに名前を呼んで良いところを大いに褒めていくことを毎日心がけます！	
16	泊江第三小学校	5	なぜ人と違うことは、ズルくないのか。私のクラスでも実際にこの疑問があがつたことがある。具体的な例を挙げて子供に話し、多様性の尊重と受容の意識を教室に広めたいと思った。	
28	泊江第三小学校	4	児童理解の重要性と、個々に応じた対応の大切さ	具体的なじれいを基に、おはなししていただける研修があります
34	泊江第三小学校	3	児童のよいところやできていることに目を向けることが大事だと、改めて思いました。児童が、何に困っているのかすぐに気付き、寄り添える教師になっていきたいです。ありがとうございました。	
37	泊江第三小学校	5	星山先生の話を聞きながら学級のある児童のことが思い浮かびました。「…しなさい」だけではどうしようもないことがあります、その児童の気持ちに寄り添うこと、共感することから始めることが大切であると改めて実感しました。2学期からの指導に生かします。	
42	泊江第三小学校	5	一人一人違って良い。違うことの良さや違うことを互いに尊重することの大切さを、どう子供たちに肯定的にとらえさせていくか、普段から教員として一人の人間として、自分の言動を振り返りたいと思いました。また、子供たちの特性をよく見て、受容の気持ちを忘れず支えていこうと思います。	
44	泊江第三小学校	4	親子関係が子供の情緒に大きく影響しているので、教員は親子関係のバックアップも必要だということ。	特別支援をすすめる時の保護者に対する対応

52	泊江第三小学校	3	それぞれの児童のできている事に目を向け、その子らしいやり方で1つ1つ課題をクリアできるように支援していく。学級の児童に対する肯定的な理解も大変重要なため、より良い言葉掛けを模索していきたい。	
80	泊江第三小学校	5	教える側の私たちが、児童の多様性を尊重し、好きなことや得意なことを生かした指導を行っていかなくてはいけないということ。	
81	泊江第三小学校	5	子供を見るまなざしのあり方。自分自身を理解すること。「本人にどう伝えるか」「周りの子にどう伝えるか」などの問い合わせを投げかけてください、考えるとてもよい機会になりました。子供の「好きや強みを生かす」こと、星山先生の肯定的な言葉の数々がとても心に響きました。	通常の学級における保護者支援について
82	泊江第三小学校	5	多様性の尊重と受容の大切さ。一人一人の個性をまず教師が受け入れること、そして一人一人が尊重されるように心掛け、毎日の指導で実践していこうと感じた。	
83	泊江第三小学校	4	多様性の受容と尊重。一人一人機能の違いがあり、それを肯定的に伝え、そもそも違う価値観のもと生活することの大切さ。自分の子供のことが想起され、いまいちど子供との関わり方を考えたいと思った。	
7	泊江第三中学校	5		ぜひ、また、お話を聞きたくです
21	泊江第三中学校	5	発達障害の困りごと	
54	泊江第三中学校	5	子こどもや保護者の困り感について、具体的に説明があり、わかりやすかったです。	星山先生がの研修は3回ほど、受講していますが、定期的に話を伺うと、こどもに対する気持ちなど再確認できるので、毎年開催を希望します。
62	泊江第三中学校	4	大変分かりやすくて参考になりました。改めて特別支援教育の重要性を感じました。	特にありません。
4	泊江第二中学校	5	多様性の尊重と受容	
6	泊江第二中学校	2	改めて一人一人の特性と向き合い、理解することの大切さを学べた。講師の先生の、みんな違う素敵色を持っているという言葉にとても心打たれました。そして、例えがわかりやすく理解がより深まりました。	特になし
8	泊江第二中学校	4	訓練、克服だけでは生きるエネルギーは湧いてこない。大人から自分の良さを伝えてもらうことで自信につながる。	
10	泊江第二中学校	2	自分発見、支援方法の基本の例えがわかりやすかった。	アンガーマネジメント
14	泊江第二中学校	3	苦手をつめる、ではなく、強みを伸ばす視点	オンラインでしたが、講師の声が聞き取りにくかったです。
41	泊江第二中学校	3	個に応じた支援の重要性を再認識しました。見え方、聴こえ方、触り心地の違いを、分かりやすく例えていただいたので、どこかで活かせればと思います。	
67	泊江第二中学校	4	イライラしている生徒への声かけを配慮していかないと、逆に無気力になる。	
72	泊江第二中学校	4	みんな違ってあたりまえ。お互いを理解することの大切さを改めてかんじました。今自分のクラスでも相手を認めることの大切さを子供たちに伝えています。再確認できました。	これから特別支援が必要な子供が増えてくると思われます。これからも研修を重ねていく必要を感じています。
77	泊江第二中学校	4	特別支援の子を、レアタイプの進化形と表することに、なるほどと思いました。同じことでも言葉を変える事で見方自体がかわると感じ、とても参考になりました。	内容ではないのですが、you tubeの音が聞きづらく折角のお話なのでとても残念でした。
2	泊江第六小学校	5	多様性と受容について	
5	泊江第六小学校	4	人が集団行動など、共に生きるのは人との助け合いを学ぶためであること	
18	泊江第六小学校	5	先生の講演は2回目の受講です。改めて先生の講演を聞くことで、子供のことをポジティブに捉え、ポジティブに伝える意識をもとうと思いました。また、特別配慮を必要とする児童についての説明の仕方、子供への受け答え方の例を聞けたことで、どんな言い方、言い回しをすればいいか参考になりました。	

			子供たちと保護者を生きやすくするために、私たち教員はどう寄り添って指導していくべきか、考えさせられました。子供たちが楽しく学べるように、これからも研鑽を積みたいと思います。	保護者対応について
22	泊江第六小学校	5	配慮が必要な児童への接し方	
25	泊江第六小学校	4	機能の違いで出来ないことをカバーすることが合理的配慮だから、教員がしっかり理解して使うことが大切である。	
26	泊江第六小学校	4	一人一人の特性が違う、それを認め合えることの大切さ。学級の中で、教師がどうアプローチするべきか、その重要性を強く感じた。	
27	泊江第六小学校	5	傷つくのは、感情が豊かな証拠。自分の当たり前は人の当たり前じゃない。学校に来ているだけで子供たちは十分に努力していることを忘れずにいていきたいと思いました。	
29	泊江第六小学校	5	多様性の尊重と受容が大切なこと。	仕事の効率を高めるための手立て。
55	泊江第六小学校	5	泊江に来てから、視知覚や味覚、音への敏感など抱える児童がいることは理解し、先生が話されていたようにそのような児童には短い刻みを刻んで意欲を損なわず、できるところは褒めて伸ばすようにしてきた。ただ、視知覚が疑われる児童への具体的な手立て、漢字が覚えにくかったらどうしたらいいかなどの方策を次は知りたい。	具体的な手立てを知りたい。
76	泊江第六小学校	4	善意の通訳のお話	
1	緑野小学校	4	特別支援の必要な児童が、どのように物事を感じているのかということ。頑張らせようがないということ。	タブレットを使った具体的な指導例
15	緑野小学校	3	感覚の特性を持っている児童が多くいること。	
32	緑野小学校	4		
43	緑野小学校	5	合理的配慮について、「自分もある」に置き換えて対応することを実践したい。視力の悪い子が眼鏡をかけるのと同じように、様々な子どもへの配慮をしていきたい。	合理的な配慮が必要な子どもへの、実際の配慮とどのように改善したかについて、具体的な事例をもとにお聞きしたい。
63	緑野小学校	5	クラスの多数派の児童への指導のしかたをどうするか、という点。教員が通訳をして意思疎通を図っていくなど、やれることをしていく大切さが印象に残りました。	
79	緑野小学校	4	子供一人一人の特性を理解して、その子に合った指導法の大切さ。	
12	和泉小学校	3	イエローくんなど本を持っているのでもう一度学びたいと思いました。	読字障害等具体的な障がいの指導方法
23	和泉小学校	5	非認知能力について	教室でできる簡単な合理的配慮。
30	和泉小学校	5	親の支援という言葉はとてもしっくりくる言葉でした。子供への支援は欠かせないですが、親への支援のあり方をもう少し詳しく考えた方が良いなと思いました。	
38	和泉小学校	4	合理的配慮、感覚特性など具体的な話を聞くことができよかったです。	
39	和泉小学校	5	児童のためと思って指導していることが、そうでない可能性があることを理解して指導にあたらないといけないことを改めて感じた。	
40	和泉小学校	5	児童生徒の困り感や言葉のかけ方、対応の仕方などがわかりました。また自分自身を見直す時間にもなりました。	
48	和泉小学校	5	見え方のぼんやり見える児童の例など実際にその立場になって考えられることができた。	特別支援を要する児童への具体的な支援方法について
49	和泉小学校	5	強みをいかす あたたかな仲間つくり	保護者の方への有効な伝え方
57	和泉小学校	5	一人ひとり、違って当たり前だということ。その違いを互いに認め合うことの大切さを学びました。	通常級における合理的配慮とはどのようなことができるのか。
59	和泉小学校	5	特別支援は、親支援と多様性の尊重と受容	視知覚と前庭覚、協調運動について
1	泊江第一小学校	5	定義などを具体例などを用いて説明して頂いたので、とても理解がしやすかったです。	
15	泊江第一小学校	3	ユニバーサルデザインの具体的な中身、なぜ、それが必要なのかを知ることができた。	個別支援の方法

47	泊江第一小学校	5	合理的配慮をこれまで何となく理解したつもりになっていたのだと実感しました。そもそもできることには配慮は当然必要だなと感じました。しかしその当然の配慮をするためには、まずその児童の特性をしっかり理解することや周りにも理解を促す必要があることを学びました。事例検討を通して実際に合理的配慮を行う難しさも実感しました。どの子もよりよく学ぶことができるよう今日の学びを2学期以降の実践に生かしていきたいです。	ギガスクール構想
50	泊江第一小学校	5	学校に必要な特別支援教育の在り方を構造的に示していました、スッキリしました。今は特別支援学級担任ですが、通常級担任の学級経営手腕の重要性を改めて感じました。	
52	泊江第一小学校	5	本研修から、ユニバーサルデザイン、合理的配慮双方について考えるときに視野を広げること、多様性を生かした配慮を考えることが印象に残りました。	
2	泊江第一中学校	5	教師としての解釈(引出し)を増やす。	統編を希望
3	泊江第一中学校	5	日常的に合理的配慮が必要な学年なのでとてもイメージしやすかったです。	
7	泊江第一中学校	5	合理的配慮の考え方方が人によって大きく異なること	
14	泊江第一中学校	5	合理的配慮と特別支援教育の違い。	
16	泊江第一中学校	4	授業UDなどの理論を理解したうえで実践していくことが大切だと思いました。	泊江市の特別支援の取り組み。特に就学支援委員会の役割など。
28	泊江第一中学校	5	焦点化、共有化、視覚化を使った授業	実践に使える今回のよ
30	泊江第一中学校	4	ユニバーサルデザイン授業の改善と合理的配慮と特別支援教育が、上手に対応できたら、すべての生徒に対応できる	な研修
38	泊江第一中学校	5	ユニバーサルデザインについて分かりやすい内容でした。合理的配慮についても事例に基づき意見交換もできて良かった。	合理的配慮はどのように実践されているのか、入試での状況など最新の現状を知りたいです。
55	泊江第一中学校	4	子どもが「自分に合った学習方法」を見付けることができるよう支援していくことが教師の務めであること	
19	泊江第五小学校	5	合理的配慮と特別支援教育両方の視点で支援することが大切だと分かった。	特別支援教育を受けた児童の進路、高校、大学、就職
20	泊江第五小学校	5	ユニバーサルデザインと合理的配慮の捉え方の違いについてよく分かった。また、事例がとても分かりやすくて良かったです。	
35	泊江第五小学校	5	3部構成で、とても分かりやすかったです。2学期からの授業や学校生活、児童対応の中で、生かしていきます。	今回のような有意義な研修をよろしくお願ひいたします。
36	泊江第五小学校	5	Learning Difference 多様な学び方について、社会全体で理解を深めることができ、個々の経験や能力を高めること。	特別支援×造形教育
12	泊江第三小学校	4	中学校の先生の考え方	教科研究を悉皆研修にして欲しいです。
21	泊江第三小学校	5	動機付けの種類	アセスメントの種類と方法
22	泊江第三小学校	5	自立活動の6つの区分と児童の特性について	
34	泊江第三小学校	5	合理的配慮と特別支援教育を分けて考えるというところがとても分かりやすかったです。特別支援教室担当として、通常の先生方にお伝えする時に生かしたいと思います。	
40	泊江第三小学校	5	合理的配慮と特別支援教育の違いについて、わかりやすく説明してもらえて理解が深まった。LDの解釈について、新たに4つの解釈を知ることができた。また、自立活動の6区分について既に具体的な事例をもとに説明していただけてよかったです。	次回も増田先生のお話を聞きたいです。
41	泊江第三小学校	5	改めて、自分の指導や日常を振り返りながらお話を聞くことができました。分かりやすくあっという間でした。	また、増田先生のお話を聞きたいです。
48	泊江第三小学校	5	入試、つまりゴールが変わらないと、授業も変わらない面があるということ。小学校では、電卓や九九カードを用いて同室でテストをしていますが、中学校では入試を見据えて難しい面があるということを知りました。	

				よりよい集団形成のための手立て。学級経営について。学級経営は、誰かに教えてもらうというより、自己流が多いと思います。学級経営の基本やよりよい集団をつくっていくためのマインドだったり手立てだったりを具体例交えて講演、演習等あれば嬉しいです。
57	泊江第三小学校	4	合理的配慮で合意形成を図っていくこと。場面緘黙の児童に対しての評価等を改めて考えなければと思いました。	
4	泊江第三中学校	5	合理的配慮について	
49	泊江第三中学校	4	障害のある生徒への合理的配慮の共通理解の重要性	「主体的な学習の態度」の観点の考え方、評価材料の具体的な事例 GIGAスクールに関する、泊江市の実態にあった活用等の研修。できれば、校種別に。
51	泊江第三中学校	5	ユニバーサルデザインや合理的配慮について、わかりやすい説明で、理解が深まりました。	
53	泊江第三中学校	5	合理的配慮の難しさ	
54	泊江第三中学校	5	①具体的な事例を使ってグループワークができ、いろいろな意見がきけたこと。合理的配慮をする上で、定期考査においては評価についても考えなくてはいけないという視点は養護教諭の自分にはなかったので参考になりました。②自立活動の6つの区分について。子どもについて理解するのに役に立てようと思いました。ありがとうございました。	
8	泊江第四中学校	5	最後の内発的動機	
9	泊江第四中学校	1	合理的配慮の必要性	
13	泊江第四中学校	5	合理的配慮について	
17	泊江第四中学校	3	合理的配慮と特別支援の違いが興味深かったのですが、やはり違いがいまいちわからなかつたです。でも、とても興味深く楽しい時間でした。	
27	泊江第四中学校	3	合理的配慮など、指導、支援が難しいと思った	
31	泊江第四中学校	5	合理的配慮の具体例	
56	泊江第四中学校	4	本校でも課題である特別支援がリアルに捉え方や見方が勉強になりました。合理的配慮の多様性の容認は印象的でした。	通常学級でもある内容を望みます。
10	泊江第二中学校	4	ユニバーサルデザインと合理的配慮・特別支援教育の関連性と実施方法の工夫。	
11	泊江第二中学校	4	合理的配慮と特別支援教育について	校内委員会の進め方、合理的配慮の具体的な進め方や事例
23	泊江第二中学校	4	合理的配慮と特別支援教育について	
26	泊江第二中学校	4	合理的配慮についての議論	
45	泊江第二中学校	5	udはどの子にもわかる、を追求すること。 Ictを活用したユニバーサルデザインの授業、誰もが参加できる楽しい授業を工夫してみます。	具体的対応の仕方。
46	泊江第二中学校	5	Ictを活用したユニバーサルデザインの授業、誰もが参加できる楽しい授業を工夫してみます。	
6	泊江第六小学校	5	ユニバーサルデザインと合理的配慮についての違いを考えることができました。二学期から、あの子にこんな支援ができるかなと、考えることができました。活用してまいりたいと思います。	働き方改革について。リモート研修の推進や進め方について。
39	泊江第六小学校	5	学校では、ユニバーサルデザイン化された授業に合理的配慮と特別支援教育の視点が必要である。	
18	緑野小学校	5	合意的配慮と特別支援の違い	
24	緑野小学校	5	合理的配慮と特別支援教育の区別	
33	緑野小学校	5	合理的配慮の合意形成の視点が今まで足りなかつた気がしました。	
37	緑野小学校	5	どの子も自信をもち、学習や生活ができるようにしていくために、一人一人の特性を見極めた指導、配慮が必要あることを学んだ。タブレット端末も効果的に使用したい。	

			今回のsuchな内容は、若手の教員が聞いても為になると思いますので、I、IIの研修でも良いと思います。
44	緑野小学校	5	具体的な事例を交えて他の先生方と協議ができたことは為になりました。明確な答えや対応に迷う場合はこうして話し合うことが大切と感じました。
5	和泉小学校	5	具体的例がわかりやすく、グループで話し合いができたこと。
25	和泉小学校	5	合理的配慮は、押し付けではいけない。合意が大切である。 ということが印象的でした。
29	和泉小学校	5	どの児童にとっても、可能性を開いていく授業、指導が大切であると感じました。児童の実態を把握してその児童に合った合理的配慮をおこなっていきたいです。
32	和泉小学校	4	合理的配慮、特別支援教育の目指すところについて、分かりやすく提示していただき、ストンと落ちました。
42	和泉小学校	5	合理的配慮について 詳しい内容でした。ありがとうございました。
43	和泉小学校	5	合理的配慮と特別支援教育の違いが明確に説明していた だいで理解を深めることができたこと